

教養教育で 「異文化理解」

教養教育基盤科目の一つである「異文化理解」領域科目には、ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語・ロシア語・スペイン語・ポルトガル語のいずれかの言語を手段として、その言語が使用される文化圏の文化・歴史・生活等を理解することを目的とする授業科目があります。

1年次に、上記の中から言語を1つ選び、以下の2種類の授業科目を履修します。

「異文化理解I基礎」(前期1単位・後期1単位)

「異文化理解I演習」(前期1単位・後期1単位)

このリーフレットは、異文化理解領域における各言語の授業科目について簡単に紹介し、新入生の皆さんが選択する際の助けとなることを目指して作成されたものです。ぜひ目を通して活用してください。

【注意】

- ①ドイツ語・フランス語・中国語以外の異文化理解領域科目は、学部・学科によっては、時間割上の理由により、履修できない場合があります。
- ②ドイツ語・フランス語・中国語の異文化理解領域科目では、2年次向けの発展科目も開講されています。詳細は履修案内を参照してください。

異文化理解領域科目①

ドイツ語



ドイツ語はドイツ・オーストリア・スイスだけでなく、リヒテンシュタインとルクセンブルクでも公用語とされています。また、イタリアの南チロル地方、フランスのアルザス・ロレーヌ地方、ベルギー東部、さらに南北アメリカ大陸にも母語話者がいて、合わせて2億人近い人々が使っています。

明治の日本が、ドイツの法律制度や軍事・医学・農学・林学などをモデルにして近代化したことは知っていますか？現代でも日本とドイツは、少子高齢化による年金制度の揺らぎや、原発やリサイクルに代表される環境政策、外国からの労働者の流入など、同じ問題に直面していて、お互いに学び合っています。

ドイツはサッカーとビールと童話だけの国ではありません。歴史的にも現代においても日本とつながりの深いドイツの文化を学んで、日本のことをもっとよく考えてみませんか。

異文化理解領域科目②

フランス語



フランス語は世界各地で話され、ベルギー人の38%、スイス人の23%、カナダ人の20%はフランス語が母語です。合衆国南部にはフランス語を話すCajunという人々がいます。アフリカでは数か国でフランス語が唯一の公用語、公用語ではないモロッコ、アルジェリアなどでも広く用いられています。南太平洋のタヒチとニューカレドニアはフランスの領土なのでフランス語です。国際オリンピック委員会の公用語はフランス語と英語でフランス語優先、FIFAは国際サッカー連盟のフランス語名の略です。フランスはファッション、グルメ、芸術、豊かな自然と歴史、多様な地域文化などが魅力で、外国人観光客数は毎年世界一、日本の2.8倍('19)です。仕事の世界でも労働生産性は日本より38%良く('19)、長時間労働者(週49時間以上)は半分の割合です('18)。フランスとフランス語圏の文化にフランス語を通して近づいてみましょう。

異文化理解領域科目③

中国語



中国語は、中華人民共和国・台湾・香港・東南アジアの華僑・華人社会を合わせれば約15億人以上の、世界最大の使用人口を誇る言語であり、国連の公用語でもあります。広大な領域に根付いた様々な個性豊かな中国文化は、古来より日本にも大きな影響を及ぼしてきました。最近では経済発展により、政治、経済の面で国際社会や日本にとって、無視できない存在となっています。

日本に大きな影響を与えた中国の文学・歴史・思想・医学・文字・言語そして現代中国の社会や政治経済は、将来大学で学んだ知識を駆使して各方面で活躍してゆく皆さんにとって、押さえておかなければならない知識です。

「異文化理解I基礎」「異文化理解I演習」における中国語の授業では、中国語の初歩的な知識を学ぶと同時に、中国の文化や社会を理解します。また継続して更に高度な語学力を育てるための授業なども用意されています。

異文化理解領域科目④

朝鮮語



日本では朝鮮半島で主として話されている言語を総体的に朝鮮語と称してきました。そして現代の韓国で使われている言語を韓国語と呼んでいます。朝鮮半島は現在南北に分断され、韓国(大韓民国)と北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)という2つの国が存在します。南北の言語にはもともとあった方言差に加え、約70年に及ぶ分断の中で生じた差も多々あるものの、1つの言語であることには違いありません。

授業では韓国の文化及び韓国語を対象とします。日本はとてとても近い国で、言語の構造も生活形態も似ていますが、そこはやはり外国、「あれっ」「おやっ」という点もたくさんあります。韓国を知ることは今まで気づかなかった日本を発見することでもあります。「異文化理解I基礎」では韓国語の初歩を、「異文化理解I演習」ではエッセーを読むことを通して韓国的なものの考え方・風習・現代の韓国人気質や社会的風潮などについて学びます。

異文化理解領域科目⑤

ロシア語



ある交渉の席、ロシア側は相手をじっと見つめ、日本側は話に頷きながら聞いていました。両者とも真剣に交渉に臨んでいますが、どういうわけかうまくいきません。日本人には、頷きもせず目を見つめられるのが怖く、他方ロシア人には、話の最中に何度も頷く相手が真剣に聞いているようには感じられません。話を聞く態度ひとつとっても、「異文化」は存在するのです。

Россия、ロシア語では自分の国をこう書きます。皆さんの知っている文字もありますが、読み方の違う文字、全く知らない文字もあります。アルファベットだけでなく文法構造の点でもロシア語は比較的「難しい」言語の一つで、最初はいくつかの「山」もあるかと思います。ですが、それを越えてゆけば1年で辞書を片手に、読み、理解し、話せるようになります。ロシアの生活習慣や文化、国民性にも触れてもらいながら、日本や欧米とはまた違う、異文化の理解に繋げてもらえればと思います。

異文化理解領域科目⑥

スペイン語

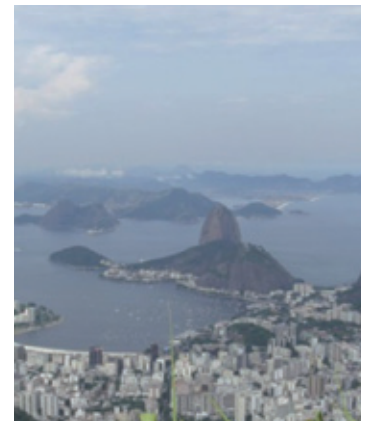


スペイン語は、世界で約4億2千万人の人々に日常的に話されており、スペイン、北米1ヶ国、中南米17ヶ国、アフリカ1ヶ国の計20ヶ国(米国自由連合州のプエルトリコを入れると21ヶ国)の公用語となっています。また国連の公用語の1つでもあります。一方アメリカ合衆国では、中南米諸国出身のヒスパニック移民が激増し、その勢力は日に日に増してきて無視できない存在になっています。

スペインと聞くと、「闘牛」「フラメンコ」「赤いバラ」という40年以上前の観光用キャッチフレーズを思い浮かべられる方も多いと思いますが、もちろんそれだけではありません。1492年コロンブスのアメリカ大陸到達から、16世紀には「日の沈まない大帝国」と呼ばれ、20世紀には内戦を経験し、現在はEU連合の一員となっているスペインの歴史と文化を、言語を通して学んでいきましょう。

異文化理解領域科目⑦

ポルトガル語



ポルトガル語はポルトガル・ブラジル・アフリカやアジアの一部など、世界8ヶ国で公用語となっていますが、大学ではブラジルで話されているポルトガル語を学びます。ポルトガル語はあまりメジャーな言語とは言えませんが、東海地方には在日ブラジル人が多いので、よく目にしたり耳にしたりできる非常に身近な言語です。ブラジルといえば、サッカー・リオのカーニバル・コーヒー・アマゾンなどが有名ですが、実は世界最大の日系人社会があり、日本とは距離が離れていますがとても密接な関係を持つ国です。

2014年のサッカーワールドカップや2016年に行われたリオデジャネイロでのオリンピック開催など、ブラジルは今とても注目を浴びています。将来東海地方で就職する時には活用できる言語なので、ぜひこの機会にブラジル・ポルトガル語を勉強してみませんか。